

## 令和7年度第2回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会

日 時 令和7年12月17日(水)

午後2時00分～午後3時30分

会 場 一関市役所2階 大会議室

### 次 第

<委嘱状交付>

1 開 会

2 挨拶

3 副会長互選

4 議 題

- (1) 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン成果指標（KPI）に対する令和6年度実績について
- (2) 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定について
- (3) 令和7年度及び令和8年度のスケジュールについて

5 その他

6 閉 会

令和7年度第2回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会 市出席者名簿

令和7年12月17日(水)開催

No.	役 職	氏 名	備 考
1	市長公室長	今野 薫	
2	市長公室次長 兼 政策企画課長	飯村 昌弘	
3	市長公室 政策企画課長補佐 兼 政策推進係長	小山 隆之	
4	市長公室 政策企画課 主任主事	谷藤 義拓	

第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン「成果指標（KPI）」の令和6年度実績 結果概要

1 成果指標の設定について

(1) 成果指標（KPI：Key Performance Indicator）設定の意義（定住自立圏構想推進要綱）

定住自立圏共生ビジョンに記載する具体的な取組に関しては、明確な成果指標を設定し、進捗管理を行うものとされています。

なお、定住自立圏共生ビジョンの期間が満了する際は、成果指標等の達成状況を踏まえ、次期共生ビジョンを策定するものとされています。

⇒ 令和8年度に、令和9年度から令和13年度までを計画期間とする第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンを策定する予定としていることから、成果指標についても見直しする予定としている。

(2) 達成率の算定方法

成果指標ごとに、2028（令和10）年度目標値に対する2024（令和6）年度実績値（実績値／目標値）により達成率を算定しました。

(3) 達成状況の設定

- A：達成（達成率100%以上）
- B：概ね達成（達成率80～99%）
- C：ある程度達成（達成率50%～79%）
- D：未達成（達成率50%未満）

2 全体の達成状況

● 令和6年度の結果



● 令和5年度の結果（参考）



【令和6年度の達成状況と今後の取組】

● 達成状況の評価

達成状況A及びBの項目は、合わせて70%以上となり、取組事業は着実に目標達成に向かっているものと捉えている。

● 今後の取組

第3次定住自立圏共生ビジョンに掲載している具体的な取組は、第2次定住自立圏共生ビジョンからの継続事業が多く、達成した指標が増加傾向にあることから、適切な成果指標となるよう、目標値の見直しを検討します。

また、令和7年度に一関市、平泉町ともに、令和8年度からを計画期間とする総合計画基本計画の策定を進めており、両市町の総合計画との整合を図るため、第3次定住自立圏共生ビジョンの見直しを行います。

### 3 分野別の達成状況

#### (1) 生活機能の強化



#### 【C、D】の指標に係る施策名

- ⑥ 介護人材育成事業
- ⑦ 成年後見制度利用支援事業
- ⑨ 観光地間二次交通整備事業
- ⑩ もち食文化発信事業
- ⑮ 農林水産業6次産業化支援事業
- ⑲ 将来世代の人材育成事業
- ⑳ 学術・スポーツ振興事業
- ㉓ 世界遺産価値向上推進事業

#### ● 政策分野別の達成状況

政策分野	達成状況
医療	A : 1項目 B : 1項目
福祉	A : 3項目 C : 2項目
産業振興	A : 3項目 B : 3項目 C : 3項目 D : 1項目
教育及び文化	A : 1項目 B : 3項目 C : 3項目
消防防災	B : 1項目

達成状況A及びBの項目は合わせて60%以上となっている。  
一方で、観光地間二次交通整備事業、もち食文化発信事業、地産外  
商促進事業、学術・スポーツ振興事業の4項目は、令和5年度から継  
続してCまたはDの達成状況となっており、それぞれの事業において  
取組の見直し等により、達成率の向上を目指す。

#### (2) 結びつきやネットワークの強化



#### 【C、D】の指標に係る施策名

- ㉔ 主要幹線道路等整備促進事業

#### ● 政策分野別の達成状況

政策分野	達成状況
地域公共交通	A : 1項目
交通インフラ整備	B : 1項目 C : 1項目
共同のまちづくり	A : 2項目
地域内外の住民との交流、移住促進	B : 2項目

達成状況A及びBの項目は合わせて70%以上となっている。  
主要幹線道路等準備整促進事業は、実績値は着実に増加しているも  
のの、目標値（平泉スマートインターチェンジの1日あたりの利用台  
数）に到達していないことから、利用台数の増加促進を図る。

#### (3) 圏域マネジメント能力の強化

#### ● 政策分野別の達成状況

政策分野	達成状況
中心市における人材育成	A : 1項目 B : 1項目

第3次共生ビジョンから開始した事業であるが、達成状況A及びB  
の項目は合わせて100%となっている。引き続き、目標達成に向けた取  
組を継続して実施する。

令和7年12月17日(水)  
令和7年度第2回懇談会  
資料No.1-2

第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標 (KPI) 達成状況一覧

Nº	政策分野	施策名	重要業績評価指標 (KPI)	R6	R7	R8	R9	R10
1	医療	休日・夜間診療体制確保事業	○休日及び夜間等に対して診療を実施した割合	A				
2		地域医療確保対策事業	○医師・医療介護従事者修学資金貸付修学者のうち、市内就職者数	B				
3	福祉	子育て世代の負担軽減事業	○岩手県及び一関市、平泉町の事業により、保育料が無料となる第2子以降の数	A				
4		子育て環境整備事業	○地域子育て支援拠点事業の利用者数	A				
5		在宅医療・介護連携推進事業	○医療・介護連携推進団体の研修、セミナー等の参加者数	A				
6		介護人材育成事業	○介護人材の確保に資する事業の利用者数	C				
7		成年後見制度利用支援事業	○成年後見制度の研修会、講演会の参加者数	C				
8	産業振興	インバウンド推進事業	○圏域内の外国人宿泊者数	A				
9		観光地間二次交通整備事業	○二次交通整備事業のバス乗車者数	C				
10		もち食文化発信事業	○もちマスター検定合格者数 (累計)	C				
11		一関・平泉バルーンフェスティバル事業	○バルーンフェスティバルの来場者数	B				
12		地域内発型産業創出事業	○産学官イブニング研究交流会の参加者数	B				
13		企業立地促進事業	○工場の新設・増設または設備投資を行った企業数 (累計)	B				
14		地産外商促進事業	○地産外商イベントにおける新規参加者の割合	D				
15		農林水産業6次産業化支援事業	○6次産業化支援事業により商品化・製品化した数 (累計)	C				
16		地元就業定着支援事業	○高校生を対象とした地元企業に対する理解促進を図るイベントでの参加者の満足度	A				
17		起業・創業応援事業	○講座受講者における起業者数 (累計)	A				
18	教育及び文化	学校給食運営事業	○地場産品に関する食育活動の実施回数	A				
19		将来世代の人材育成事業	○圏域の中学2年生及び中学3年生のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合	C				
20		地元学事業	○地元学事業の参加率	B				
21		学術・スポーツ振興事業	○東北規模以上のスポーツ大会や学会等の開催数	C				
22		世界文化遺産調査整備事業	○包括的保存管理計画に基づく無量光院跡の整備進捗率	B				
23		世界遺産価値向上推進事業	○骨寺村荘園交流施設利用者数	B				
24	消防・防災	広域消防事業	○消防防災セミナー参加人数	B				
25	地域公共交通	生活バス路線対策事業	○人口に対するコミュニティバス等の乗車人数 (延べ) 割合	A				
26	交通インフラ整備	主要幹線道路等整備促進事業	○平泉スマートインターチェンジの1日当たりの利用台数	C				
27		幹線道路等整備事業	○市道及び町道の改良率	A				
28	協働のまちづくり	協働のまちづくり事業	○地域活動の事業数	A				
29		多文化共生推進事業	○多文化共生事業への参加者数	A				
31	地域外の住民との交流、移住促進	移住定住交流促進事業	○移住定住施策で移住した人の数	B				
32		結婚活動支援事業	○合同婚活イベントのカップル成立組数 (累計)	B				
33	中心市等における人材育成	DX地域活性化事業	○スマートフォン講座の参加者数	A				
			○職員研修の参加者数	B				

施策名	休日・夜間診療体制確保事業				
連携する視点	生活機能の強化		政策分野	医療	
施策の展開	地域保健医療体制の充実		SDGsとの関連性		
取組内容	圏域内の休日及び夜間等における救急医療体制を確保するため、一関市医師会及び関係機関と連携し、休日及び夜間等における救急医療等を実施する。		  		
成果指標 (KPI)	休日及び夜間等に対して診療を実施した割合				
現状値 (2022 (R4) 年度)	84%	目標値 (2028年 (R10) 度)	84%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【一関市】</b> ○休日・夜間当番医制運営事業 ○休日歯科応急診療事業 ○病院群輪番制病院運営事業 (県と共同実施) <b>【平泉町】</b> ○医療体制充実事業				
事業効果	休日及び夜間等の医療提供体制を確保することにより、圏域住民の安心と安全が確保される。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	48,221	47,349	47,349	47,349	47,349
役割分担	圏域の医療体制の充実を図るため、両市町をエリアとする一関市医師会の協力の下、一関市が関係機関等の調整を行い、休日及び夜間等における医療提供体制を確保し、平泉町はその費用の一部を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	84%				
2024年度評価	①休日当番医：受診者数 7,392人 ②夜間救急当番医：受診者数 1,034人 入院や手術などが必要な患者を受け入れている県立病院等の救急医療（二次救急）体制の維持・確保のため、医療機関の適正受診の普及啓発を実施した。 令和7年4月1日から開始される、住民が急な病気などの際に救急車を呼ぶべきか相談できる救急安心センター事業（#7119）の実施にあたり、県との調整を行った。				
次年度以降の取組	住民の安心と安全に寄与することを目的に、休日及び夜間等における初期救急（一次救急）のための医療提供体制を確保に継続して取り組む。				

施策名	地域医療確保対策事業				
連携する視点	生活機能の強化		政策分野	医療	
施策の展開	医療従事者の確保対策		SDGsとの関連性		
取組内容	将来、医師として一関市内の公的医療機関等に勤務しようとする者及び医療従事者として市内の医療機関等に勤務しようとする者に対し、修学資金を貸し付けるほか、医療従事の資格を持つ者に対する就業支援を行うことにより、医師及び医療従事者の確保に努める。		    		
成果指標 (KPI)	医師・医療介護従事者修学資金貸付修学者のうち、市内就職者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	10人	目標値 (2028年 (R10) 度)	15人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【一関市】</b> ○医師修学資金貸付事業 ○医療介護従事者修学資金貸付金（医療従事者分） ○地域医療を守る支援事業 （看護職員復職研修受講奨励補助金） ○臨床研修医研究支援事業費補助金				
事業効果	圏域内の医療従事者の確保と定着を図ることにより、圏域住民の安心と安全が確保される。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	49,949	59,651	68,351	65,255	65,255
役割分担	両市町は、同一の医療圏に属しているところであり、圏域として医師及び医療従事者の確保を図るため、一関市が事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	14人				
2024年度評価	県内を中心に高校や養成学校等に制度の周知を行ったが、令和6年度は目標値に及ばなかった。医師：0人、医療介護従事者：10人				
次年度以降の取組	医療介護従事者の人材を確保するため、今後も制度の周知に努めながら継続して取り組んでいく。				

施策名	子育て世代の負担軽減事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	福祉	
政策の内容	総合的な子育て支援				
取組内容	SDGsとの関連性				
取組内容	子育て世代の経済的負担を軽減するため、妊産婦、乳幼児から高校生までの医療費助成や第2子以降の保育料無料化を行う。				
成果指標 (KPI)	岩手県及び一関市、平泉町の事業により保育料が無料となる第2子以降の数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	563人	目標値 (2028年 (R10) 度)	511人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【共通】</b> ○第2子以降保育料軽減事業 ○妊産婦医療給付 ○乳幼児から高校生までの医療給付 ○在宅育児支援金給付 ○出産子育て応援給付金 ○妊産婦交通費助成 <b>【一関市】</b> ○妊婦のための支援給付金 ○初回産科受診料助成金 <b>【平泉町】</b> ○出産祝金給付				
事業効果	子育て世代に対する経済的負担の軽減により、安心して子どもを産み育てる環境づくりが図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	3,025,305	3,351,117	3,347,512	3,347,512	3,347,512
役割分担	定住促進につながる取組という共通認識のもと、子育て支援のため、市、町それぞれが子育て世代の経済的負担の軽減策を独自に実施し、必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	579人				
2024年度評価	(一関市) 令和6年度は、525人のこどもの保育料が無料となり、 <u>子育て世帯の負担軽減が図られた。</u> (平泉町) 保育料の軽減により子育てにかかる経済的負担を軽減し、 <u>子どもを産み育てやすい環境づくりに努めた。</u>				
次年度以降の取組	(一関市) 子育て世帯の負担軽減のため、制度の周知を行い、 <u>子育てをしやすい環境づくりに努める。</u> (平泉町) 継続して保育料の軽減により子育てにかかる経済的負担を軽減することにより、 <u>子どもを産み育てやすい環境づくりに努める。</u>				

施策名	子育て環境整備事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	福祉	
政策の内容	総合的な子育て支援				
取組内容	SDGsとの関連性				
取組内容	働きながらも安心して子育てができるような環境整備に取り組むほか、子ども及びその保護者が相互交流を行う場の提供、子育てに関する相談対応や情報提供などを行い、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。				
成果指標 (KPI)	地域子育て支援拠点事業の利用者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	10,778人	目標値 (2028年 (R10) 度)	10,162人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【共通】</b> ○ファミリー・サポート・センター運営事業 ○延長保育事業 ○一時預かり事業 <b>【一関市】</b> ○幼稚園一時預かり事業 ○地域子育て支援拠点事業 ○地域子育て相談事業 <b>【平泉町】</b> ○子育て支援センター事業				
事業効果	子育ての負担を軽減することにより、安心して子どもを産み育てる環境づくりが図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	91,961	105,501	105,501	105,501	105,501
役割分担	定住促進につながる取組という共通認識のもと、一関市においては、子どもを豊かに育む保育環境の整備を促進する。平泉町においては、図書館・公民館の複合施設と併設した子育て支援スペースを活用し、複合施設の利点を生かしながら両市町をエリアとする親子の交流ができる場を提供し、それぞれが必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	11,837人				
2024年度評価	(一関市) 一部の会場では利用時の予約を不要としたほか事業の周知にも力を入れたことで、 <u>前年度よりも利用者が増加した。利用する地域に偏りがあることが課題である。</u> (平泉町) 乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場として、子育てについての相談、情報提供、助言等の支援を実施し、 <u>地域の子育て支援機能の充実を図るとともに、子どもの健やかな成長を支援することに努めた。</u>				
次年度以降の取組	(一関市) 子育てに関するニーズを把握しながら、 <u>子どもや子育て世帯への切れ目のない支援及び育児に負担や不安を抱えている保護者を支える相談体制の充実を図っていく。</u> (平泉町) 今後も乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場として、 <u>子育てについての相談、情報提供、助言等の支援を実施し、地域の子育て機能の充実を図るとともに子どもの健やかな成長を支援していく。</u>				

施策名	在宅医療・介護連携推進事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	福祉	
政策の内容	地域で安心して暮らせる環境整備		SDGsとの関連性		
取組内容	今後、要介護高齢者の増加が見込まれる中、医療や介護において切れ目のないサービスを受けられるよう、相互に情報の交換や共有を円滑に行い、医療、介護それぞれの分野を超えた多職種連携体制の構築を進める。				
成果指標 (KPI)	医療・介護連携推進団体の研修、セミナー等の参加者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	373人	目標値 (2028年 (R10) 度)	400人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○地域医療・介護連携推進事業				
事業効果	医療介護の連携体制が構築されることにより、医療依存度の高い要介護状態となっても、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	1,000	1,085	1,085	1,085	1,085
役割分担	一関市が圏域内の医療と介護の情報共有や連携を深める連絡会、両市町の医療・介護関係者を対象とした研修等を実施し、平泉町も協力する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	695人				
2024年度評価	研究会や市民フォーラムで、 <u>心肺蘇生を望まない方への救急活動や成年後見人制度などを企画したことや、継続的に講演内容としているアドバンス・ケア・プランニング (ACP) に対する市民の関心が高まったことが参加者の確保につながり、参加者数の増加につながった。</u> ・市民フォーラム (1回 参加者244人) ・研究会 (2回 参加者231人) ・ケアカフェ (2回 参加者52人) ・おきがる出前講座 (11回・参加者168人)				
次年度以降の取組	各研究会等でアンケートを実施し、 <u>意見等を組み込みながら魅力のある内容を企画する。</u> また効果的な周知活動を検討し、目標値の参加者数を達成できるよう取り組んでいく。				

施策名	介護人材育成事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	福祉	
政策の内容	地域で安心して暮らせる環境整備		SDGsとの関連性		
取組内容	高齢化の進展とともに増加する要介護者、要支援者に対して、安定的に介護サービスを提供できるよう、介護人材の確保、定着、育成のための取組を進める。				
成果指標 (KPI)	介護人材の確保に資する事業の利用者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	59人	目標値 (2028年 (R10) 度)	79人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○医療介護従事者修学資金貸付金 (介護福祉士分) ○医療介護人材育成事業 【平泉町】○介護職員奨励金				
事業効果	介護人材の確保により、安心して介護を受けられる環境が整備される。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	30,280	30,470	29,990	31,310	36,600
役割分担	介護保険は、両市町が共同で運営していることから、介護人材の確保等の対策についても、市町で情報交換しながら、それぞれが事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	48人				
2024年度評価	(一関市) 介護職員のスキルアップや資格取得支援、就労定着支援を行ったが、 <u>事業の利用者数は減少傾向となった。</u> (平泉町) 事業周知を図っているが、町内の介護事業所のほとんどは、一関市に本部が所在しており、市の介護人材確保事業を活用するケースが多いため、 <u>利用者数は伸び悩んでいる。</u>				
次年度以降の取組	(一関市) 人材確保、育成に向けた取組を推進するため、講座内容等の充実と効果的な周知により、 <u>利用者数の増加と介護人材の確保に取り組む。</u> (平泉町) 今後も事業周知を進めるとともに、 <u>事業対象の拡大も検討しながら介護人材の確保に取り組んでいく。</u>				

施策名	成年後見制度利用支援事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	福祉	
政策の内容	地域で安心して暮らせる環境整備		SDGsとの関連性		
取組内容	障がいのある無や年齢に関わらず相談に応じ、市民に対して成年後見制度の普及及び利用促進を図り、関係機関との連携ネットワークとなる「一関地方権利擁護連携推進協議会」において、取組を進める。				
成果指標 (KPI)	成年後見制度の研修会、講演会等の参加者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	0人	目標値 (2028年 (R10) 度)	500人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【共通】○成年後見制度利用支援事業				
事業効果	相談窓口の明確化により、早期対応から専門相談へつながるとともに、成年後見制度の利用促進が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	8,636	9,073	9,073	9,073	9,073
役割分担	成年後見制度にかかる協議会を設立し、一関市と平泉町が構成メンバーとして参加し、市町で情報共有しながら事業を実施し、それぞれが必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	268人				
2024年度評価	関係者向けの研修会を実施した。また在宅医療・介護連携市民フォーラム、市民健康講座にて制度活用事例等の講話を実施し、 <u>成年後見制度の周知を行った。</u>				
次年度以降の取組	今後も市民へ講演会等を実施し、 <u>権利擁護や成年後見制度周知に取り組んでいく。</u>				

施策名	インバウンド推進事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	文化と地域資源を活かした観光の振興		SDGsとの関連性		
取組内容	国や県におけるインバウンド推進の取組と連動して、近隣市町村との連携によるインバウンド誘客に取り組むとともに、受入環境整備を継続して取り組む。				
成果指標 (KPI)	圏域内の外国人観光入込客数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	13,981人	目標値 (2028年 (R10) 度)	121,700人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○観光ガイド事業 ○インバウンド推進事業費 【平泉町】○国際交流員活用事業				
事業効果	圏域への経済効果が期待できるインバウンド誘客が促進されるとともに、訪日外国人観光客の利便性が高まる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	21,701	20,910	14,067	14,067	14,067
役割分担	一関市と平泉町が連携し、インバウンド誘客のための事業を実施し、それぞれが必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	163,944人				
2024年度評価	(一関市) 訪日外国人観光客は増加傾向であり、令和5年度に続き、過去最高を記録した。その要因として、円安や花巻空港・仙台空港での台湾等との海外定期便が再開されたことが考えられる。 (平泉町) インバウンド誘客については、本町を多く訪れている台湾やタイを中心にPR活動を実施した。令和6年12月に開催された「日本東北遊楽日2024」に一関市と連携してブース出展、令和7年2月に開催された「ジャパンエキスポタイランド2025」にブース出展するなど、今後のインバウンド観光客増加を見据えた海外プロモーション活動に取り組んだ。				
次年度以降の取組	(一関市) 接遇能力の向上、体験型観光資源の充実、多言語表示などの受入環境整備に継続して取り組むとともに関係団体等と連携して各種情報発信ツールを活用したPRを図る。 (平泉町) さらなるインバウンド観光需要の高まりを見据え、観光関係団体等との連携による誘客プロモーションや情報発信に努めていく。				

施策名	観光地間二次交通整備事業					
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興		
政策の内容	文化と地域資源を活かした観光の振興		SDGsとの関連性			
取組内容	世界文化遺産「平泉」と一関市の主要観光地を結ぶ二次交通を整備することにより、観光客の交通手段の利便性の向上を図る。					
成果指標 (KPI)	二次交通整備事業のバス乗車者数					
現状値 (2022 (R4) 年度)	1,130人	目標値 (2028年 (R10) 度)	2,000人	関係市町	一関市 平泉町	
事業名称	【一関市】○観光地間二次交通整備事業					
事業効果	周遊観光を促進させ、交流人口と滞在時間の増加による消費の向上、地域経済の活性化が図られる。					
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
事業費 (千円)	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	
役割分担	一関市と平泉町の観光地を結ぶバス運行を一関市が実施し、その経費を負担する。					
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
	1,195人					
2024年度評価	観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、 <u>周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。</u>					
次年度以降の取組	周遊観光の促進のため、二次交通網の整備は継続して行うが、費用対効果の観点から、 <u>利用実態の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の増に努める。</u>					

施策名	もち食文化発信事業					
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興		
政策の内容	文化と地域資源を活かした観光の振興		SDGsとの関連性			
取組内容	もち食文化を若い世代へ普及、継承するとともに地域外へ発信することにより、圏域内へのインバウンドを含めた誘客を推進する。					
成果指標 (KPI)	もちマイスター検定合格者数（累計）					
現状値 (2022 (R4) 年度)	170人	目標値 (2028年 (R10) 度)	260人	関係市町	一関市 平泉町	
事業名称	【一関市】○全国もちフェスティバル開催費補助金 ○食と農の観光PR事業					
事業効果	全国、世界に向けて積極的にPRすることにより、もち食文化の聖地として広く認知されることで、食による交流人口の拡大が図られる。					
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
事業費 (千円)	9,354	9,354	0	0	0	
役割分担	もち食文化の普及・継承、情報発信のために圏域内の団体に組織する実行委員会が実施する事業に対し、一関市がその費用を負担するとともに、平泉町は事業への協力を行う。					
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
	196人					
2024年度評価	毎年度もちマイスター検定を実施していることにより、合格者数は増加している。 <u>検定を通して、当地方のもち食文化への理解が深められ、普及・継承に繋がっている。</u>					
次年度以降の取組	検定内容の見直しやWEB化等について検討を図り、 <u>受検者増加を目指す。また、もちマイスターの活躍の場について検討していく。</u>					

施策名	一関・平泉バルーンフェスティバル事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	文化と地域資源を活かした観光の振興		SDGsとの関連性		
取組内容	一関・平泉エリアの魅力を国内外に広く発信するため、熱気球イベント「一関・平泉バルーンフェスティバル」を開催し、交流人口や関係人口の拡大と、一関・平泉の知名度の向上を図る。				
成果指標 (KPI)	バルーンフェスティバルの来場者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	85,000人	目標値 (2028年 (R10) 度)	120,000人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○一関・平泉バルーンフェスティバル事業				
事業効果	イベントの開催による交流人口・関係人口の拡大により、当圏域の情報・魅力の発信が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
役割分担	圏域への誘客を図るため、両市町を含む関係団体が構成する実行委員会が実施する事業に対し、一関市がその費用を負担し、平泉町は事業への協力を行う。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	105,000人				
2024年度評価	開催を通じて全国に情報発信するとともに、賑わいの創出、地域経済の活性化に繋がった。 また、必要経費や事業内容の見直しによる予算の削減及び平日のイベントの縮小など改善しつつ全国もちフェスティバルと併催したことで、観覧者数及び来場者数も増加した。(現状数値対比123%)				
次年度以降の取組	更なる改善を図りつつ継続実施により滞在型観光の誘客を促進するほか、一時的な集客イベントだけでなく宿泊利用や交流人口の拡大により、さらなる地域経済の活性化を図る。				

施策名	地域内発型産業創出事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	企業の育成等の工業振興		SDGsとの関連性		
取組内容	地域内発型の産業創出を図るため、地域内企業の交流会や各種セミナー等の開催、研究機関等と共同または委託により実施する新製品・新技術開発事業、品質向上のための事業に対する補助等を行う。				
成果指標 (KPI)	産学官イブニング研究交流会の参加者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	446人	目標値 (2028年 (R10) 度)	630人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○地域内発型産業創出事業 ○ものづくり産業振興事業 【平泉町】○取引支援促進事業				
事業効果	圏域内企業の連携や新規産業への参入、取引の拡大が図られることにより、地域企業の活性化や雇用の創出・安定が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	4,590	4,890	4,890	4,890	4,890
役割分担	地域内発型産業の創出に向けた事業を市町がそれぞれ事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	527人				
2024年度評価	研修交流会の開催により、産学官の連携強化とネットワークの構築を図ることができた。 参加者数は、目標数値に達していないが、令和5年度実績と比較し5%の増加した。				
次年度以降の取組	引き続き、企業や一関工業高等専門学校の教員、行政、産業支援機関等の様々な分野の方を講師とした講演会や異業種による交流会の開催に向け、関係機関と連携して取り組んでいく。				

施策名	企業立地促進事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	企業の育成等の工業振興		SDGsとの関連性		
取組内容	圏域内において工場を新設・増設または設備投資を行った企業に対して助成を行う。				
成果指標 (KPI)	工場の新設・増設または設備投資を行った企業数 (累計)				
現状値 (2022 (R4) 年度)	42社	目標値 (2028年 (R10) 度)	77社	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【共通】</b> ○地域企業経営強化支援事業費補助金 <b>【一関市】</b> ○市内企業生産拠点整備事業費補助金 ○生産設備等投資促進補助金 <b>【平泉町】</b> ○企業立地促進奨励事業費補助金				
事業効果	圏域住民の雇用の創出が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	210,000	155,000	156,500	256,500	256,500
役割分担	通勤圏を同じくする圏域住民の雇用確保のため、両市町がそれぞれ助成を行う。				
実績値	2024 (R6) 72社	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
2024年度評価	(一関市) 新型コロナウイルス感染症の影響により計画当初は設備投資の動きが鈍かったが、令和5年度以降は各企業の投資活動に伸びが見られ、制度を利用する企業の増加につながった。 (平泉町) 令和6年度も具体的な実績はなかったものの、立地企業への訪問や情報交換等により課題や要望を把握しながら事業活動を支援した。				
次年度以降の取組	(一関市) 今後も企業のニーズを把握し、市の支援策をPRすることで企業の新増設を支援していく。 (平泉町) 近年の円安による輸入コストの増大や世界的な賃金上昇などの国際情勢などに起因し、企業の国内回帰や多拠点化、都市部から地方への人材の移動などの動きが加速している一方、アメリカのトランプ政権の関税措置による自動車産業をはじめとする現地生産への圧力など、国内製造業への影響が今後懸念されることから、事業活動の活性化に向けて、引き続き情報交換を行いながら支援していく。				

施策名	地産外商促進事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	企業の育成等の工業振興		SDGsとの関連性		
取組内容	首都圏等のイベントを通じて、農産物のPRや圏域の魅力発信を行うほか、生産者と首都圏等の流通事業者等とのマッチングを図り、生産者のビジネス展開に繋がる支援を行う。				
成果指標 (KPI)	地産外商イベントにおける新規参加者の割合				
現状値 (2022 (R4) 年度)	0%	目標値 (2028年 (R10) 度)	40%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【一関市】</b> ○地産外商促進事業 ○農産物等海外販路開拓促進事業費 <b>【平泉町】</b> ○農産物等販路拡大事業				
事業効果	消費者との顔が見える交流により、新たな顧客の獲得と生産者の誇りが生み出されるとともに、食を通じた圏域のファン拡大につながる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	7,099	6,461	6,461	6,461	6,461
役割分担	圏域の農産物のブランド化に向け、相互に情報交換や連携事業を行うほか、地域資源を活用した商品開発や農産物の販路拡大やマーケティング支援事業を両市町がそれぞれ実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6) 18%	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
2024年度評価	市内農林業者、食品製造業者等が首都圏の流通関係者、食産業事業者に対し、 <u>商談会を1月、2月に実施した。新規件数は少ないものの、首都圏等への販路拡大に向けた生産者のビジネス展開につなげることができた。</u>				
次年度以降の取組	今後においても、首都圏の流通関係者、食産業事業者に対し、 <u>商談につながる取組を検討していく。</u>				

農林水産業6次産業化支援事業					
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	企業の育成等の工業振興		SDGsとの関連性		
取組内容	圏域の農林水産物を活用した加工品開発や加工施設・機械の整備に要する経費に対し助成を行い、6次産業化や圏域の事業者による農商工連携の推進を図る。				
成果指標 (KPI)	6次産業化支援事業により商品化・製品化した数 (累計)				
現状値 (2022 (R4) 年度)	18	目標値 (2028年 (R10) 度)	38	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○農商工連携開発事業費補助金 【平泉町】○6次産業化促進支援事業補助金				
事業効果	圏域の農林水産物を活用した商品開発や生産設備への支援を行うことで、6次産業化による付加価値向上を図る。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	4,002	4,002	502	502	502
役割分担	6次産業化を促進するため、両市町がそれぞれ事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	21				
2024年度評価	(一関市) 地域の農産物を活用した加工品開発や施設整備などを支援する農商工連携開発事業費補助金を継続し、市内事業者の連携による1件の商品化に繋がった。 (平泉町) 産業振興及び地域経済の活性化を図るため、町内で生産される農畜産物を有効に活用し、新たな加工品の商品開発及び加工施設の整備などを支援する6次産業化促進支援事業補助金を継続し、1件の商品化に繋がった。				
次年度以降の取組	(一関市) 市内の農業者や商工業者を中心に6次産業化や農商工連携への取り組みを促すためのセミナーを開催し、地元農産物の付加価値向上に向けた取り組みを進めるとともに、インターネットを活用した商品のPRや販売等の支援に努める。 (平泉町) 町内農業者や商工業者へ6次産業化への更なる取り組みを促すため広報やホームページにより周知を行っていく。				

地元就業定着支援事業					
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	事業承継・産業人材の確保		SDGsとの関連性		
取組内容	高校生をはじめとする学生を対象に地域企業の説明会、見学会や若手社員との交流会を開催するとともに、地元就職者や地元就職を進める企業等へ支援を行う。				
成果指標 (KPI)	高校生を対象とした地元企業に対する理解促進を図るイベントでの参加者の満足度				
現状値 (2022 (R4) 年度)	82%	目標値 (2028年 (R10) 度)	96%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【共通】○希望のまち基金事業 【一関市】○奨学金返還補助事業 ○若者地元就業定着事業 ○新規高卒者地元就職応援事業 ○新規高卒者人財育成支援事業補助金 ○若者等人財育成支援事業補助金 ○インターシップ促進助成金 ○外国人インターンシップ促進補助金 ○新規学卒者等就職促進支援事業 【平泉町】○新規就職者支援事業補助金 ○若者等人財育成支援事業補助金				
事業効果	地元への就職を考えている新卒者や、Uターンを考えている若者の地元就職や就業及び定着が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	40,273	50,128	44,298	45,010	49,820
役割分担	地元就業定着に向けた事業を市町がそれぞれ事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	99%				
2024年度評価	就職を希望する市内高校2年生 (合計:305人) を対象に開催した「いちのせきしごと発見フェア」※のアンケート結果は、ほぼすべての生徒が参考になったと回答した。 市をはじめとする関係機関が実施する各種事業が奏功し、管内高等学校の卒業者が減少する中、令和6年度の管内就職者数は増加 (144人→148人) し、管内就職率も48.7%に改善 (前年度比+1.3ポイント) した。 ※企業紹介および若手社員との懇談				
次年度以降の取組	若者の地元就職及び定着を促進するため、就職前の高校生に管内事業者を知る機会を提供するなど、学校や関係機関と連携して各種事業を推進するとともに、働きやすい職場環境の整備及び人材育成への支援に取り組む。				

施策名	起業・創業支援事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	産業振興	
政策の内容	事業承継・産業人材の確保		SDGsとの関連性		
取組内容	<p>起業家精神の醸成を図り、起業・創業の知識を学ぶ起業応援講座やセミナー等を開催する。市の講座を受講し、市内で起業する者や自社の企業価値の向上を図る取組を行う者などの支援を行う。</p>				
成果指標 (KPI)	講座受講者における起業者数 (累計)				
現状値 (2022 (R4) 年度)	36人	目標値 (2023年 (R10) 度)	55人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<p>【一関市】 ○いちのせき起業応援事業 ○地域ビジネス創出事業 ○学生起業家チャレンジ事業 ○商店街活性化事業補助金 ○地域ビジネス創出加速化支援交付金 【平泉町】 ○ひらいずみ創業塾 ○起業・事業承継支援事業</p>				
事業効果	<p>起業家精神の醸成と若者の働く場所の確保や地域活性化が図られる。また、起業・創業者の早期の経営安定が図られる。</p>				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	31,960	38,308	33,508	33,508	33,508
役割分担	<p>圏域での働く場所の確保や地域産業の活性化を共通認識のもと、一関市、平泉町が事業を独自に実施し、その費用をそれぞれが負担する。</p>				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	75人				
2024年度評価	<p>(一関市) 一関商工会議所や民間支援機関等と連携しながら、起業を目指す人の段階に応じた支援を行っており、目標値の到達に向け順調に推移している。 (平泉町) 町で実施しているプログラミング講座の受講生もセミナーに加え、創業に向けた基礎知識の習得や計画の策定などについて、全4回講座の創業セミナーを関係機関と連携して開催し、若手経営者や後継者の育成に努めた。</p>				
次年度以降の取組	<p>(一関市) 起業にあっては、起業する人の拠点整備や資金調達など進捗によって起業の時期にばらつきが生じる傾向にあるが、起業しやすい環境づくりや起業後も安定して事業を継続していけるよう引き続き起業支援の取組を充実させていきたい。 (平泉町) 引き続き商工関係団体と連携し、創業を目指す人材の掘り起こしと育成に努める。</p>				

施策名	学校給食運営事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	教育及び文化	
政策の内容	教育環境の整備や教育内容の充実		SDGsとの関連性		
取組内容	<p>効率的な給食運営と施設利用のため、一関市の給食センターから平泉町の中学校へ学校給食の提供を行う。 また、地場産品が豊富な給食の提供や生産者等の交流を通じた食育活動を進める。</p>				
成果指標 (KPI)	地場産品に関する食育活動の実施回数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	42回	目標値 (2023年 (R10) 度)	37回	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<p>【一関市】 ○学校給食センター運営費 ○郷土愛を育む食育交流事業 【平泉町】 ○平泉中学校給食事務委託事業</p>				
事業効果	<p>一体的な施設利用により、新たな施設整備の経費が軽減される。また、学校給食における地場産品の提供と食育活動を通じて圏域の農業や食文化を知り、児童生徒の郷土愛が育まれる。</p>				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	1,010,822	1,008,033	1,008,033	1,008,033	1,008,033
役割分担	<p>学校給食の安定的な提供を共同で行うとの考えに立ち、一関市が平泉町の中学校への学校給食を提供し、平泉町はその費用の一部を負担する。 また、給食の提供と併せて一関市が食育活動を行い、その費用を負担し、平泉町が食育活動に協力する。</p>				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	45回				
2024年度評価	<p>(一関市) 学校による食育活動や郷土愛を育む食育交流事業による生産者との交流、地場産食材を使用した外部講師による調理実習、学校給食レシピコンテストなどを実施した。 (平泉町) 地場産物の栽培や米のPR活動を通じて、食材ができるまでの過程を学び、地場産物への理解と地域への愛着が深めた。</p>				
次年度以降の取組	<p>(一関市) 今後も各校において、学校給食や生産者をはじめとする食育に携わる関係者との交流を通じて、地場産物に関する理解と愛着形成につなげていく。 (平泉町) 今後も学校給食や地場産物の栽培体験を続け、地域の食とふれあう機会を広げていく。身近な食材を通して浄土への親しみを育み、食への関心と感謝の心を育てる。</p>				

施策名	将来世代の人材育成事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	教育及び文化	
政策の内容	教育環境の整備や教育内容の充実		SDGsとの関連性		
取組内容	未来に向けた人材を育成するため、英語学習や科学技術に対する興味、関心を高める事業を実施する。 また、社会を生き抜く力を身に付けるため、中学生の社会体験学習を実施する。				
成果指標 (KPI)	圏域の中学2年生及び3年生のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合				
現状値 (2022(R4)年度)	79%	目標値 (2028年(R10)度)	88%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【共通】○英語の森キャンプ事業 ○外国語指導助手配置事業 ○中学生最先端科学体験研修事業 【一関市】○中学生の社会体験学習事業 ○中学生ILC特別授業				
事業効果	将来を担うこどもたちの科学技術に対する興味、関心が高まり、国際性、社会性が育まれるとともに、地域への愛着が醸成される。				
実施年度	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
事業費(千円)	51,714	51,558	51,558	51,558	51,558
役割分担	未来へ飛躍を実現する人材を養成するため、一関市が事業を実施し、平泉町は必要な費用の一部を負担するほか、市町独自で事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024(R6) 65%	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
2024年度評価	(一関市) 夢や希望を持っていると回答(1,494人中986人) 各事業の推進が、 <u>児童・生徒が将来の夢や目標をもつことに繋がっている。</u> (平泉町) 夢や目標を持っていると回答(55人中29人) 英語の森キャンプ事業(中学校2年生3人、小学校6年生1人)や中学生最先端科学体験研修事業への参加など、 <u>児童生徒の多様な学習機会を設けることができた。</u>				
次年度以降の取組	(一関市) 昨年度までの反省を生かして改善しながら、今年度も <u>学校と連携しながら各事業を継続していく。</u> (平泉町) 働く意義を学ぶ場や多様な各種活動体験による <u>多様な学習の機会を設けている。</u>				

施策名	地元学学習事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	教育及び文化	
政策の内容	生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興		SDGsとの関連性		
取組内容	郷土の歴史、文化及び産業について学ぶことができる、講座、講演会、体験学習など様々な機会を提供する。				
成果指標 (KPI)	地元学事業の参加率				
現状値 (2022(R4)年度)	67.1%	目標値 (2028年(R10)度)	70.1%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○地元学を通じた交流事業 【平泉町】○～過去に学び、今を見つめ、未来を考える～ 平泉ひとつくり事業				
事業効果	郷土の歴史、文化及び産業を学びながら、地元の魅力に触れることで郷土愛が育まれるとともに、参加者間での世代間交流が深まる。				
実施年度	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
事業費(千円)	2,087	2,155	2,155	2,155	2,155
役割分担	平泉文化や自らが住む地域の歴史等を学ぶ機会を創出するため、両市町が地元学等の事業を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。				
実績値	2024(R6) 66.3%	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
2024年度評価	(一関市) 実施回数や定員など、 <u>事業の見直しを実施したが、結果として参加者数は増加しなかったため、参加率は減少した。</u> (平泉町) 学校教育と社会教育の連携による平泉学(地域学習)を学校と地域で推進し、 <u>郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、学びの成果を活用して青少年リーダー人材の育成に取り組んだ。</u>				
次年度以降の取組	(一関市) <u>市民のニーズに即した事業を実施し、参加者増加につなげる。</u> 広報活動の展開により、新規講座利用者の掘り起こしを行う。 小中学校や社会教育事業等との連携を働きかける。 (平泉町) 子どもたちの発達段階に応じた <u>系統的な学習機会を提供しつつ、地域で世代を越えて学び合う場を創出していくことで、全世代型の平泉学(地域学習)として引き続き推進していく。</u>				

施策名	学術・スポーツ振興事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	教育及び文化	
政策の内容	生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興 SDGsとの関連性				
取組内容	一関市内で行うスポーツ大会や宿泊を伴う学会等を開催する主催者に対し、補助を行う。				
成果指標 (KPI)	東北規模以上のスポーツ大会や学会等の開催数（累計）				
現状値 (2022 (R4) 年度)	4回	目標値 (2028年 (R10) 度)	34回	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○スポーツ大会開催補助金 ○学会等開催補助金				
事業効果	他地域から参加者が集うスポーツ大会や各種会議等の開催により、スポーツ、学術を通じた地域活性化や文化的・人的交流が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	2,300	2,200	2,200	2,200	2,200
役割分担	スポーツ大会や学会等を誘致するため、一関市が補助金の交付を行い、費用を負担する				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	25回				
2024年度評価	スポーツ大会の開催については、新型コロナウイルス感染症の流行前の状況に戻りつつあり、令和6年度は5件の大会に対して補助金を交付した。				
次年度以降の取組	令和4年度に新設したスポーツ大会開催補助金などの積極的な活用を図り、大規模大会等の誘致や大会開催を支援し、交流人口の拡大につなげていく。				

施策名	世界文化遺産調査整備事業				
連携する事項	生活機能の強化		政策分野	教育及び文化	
政策の内容	世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理 SDGsとの関連性				
取組内容	「平泉の文化遺産」の調査保存を行い、その成果を後世へ繋いでいくもの。				
成果指標 (KPI)	包括的保存管理計画に基づく無量光院の整備進捗率				
現状値 (2022 (R4) 年度)	95%	目標値 (2028年 (R10) 度)	100%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【平泉町】○無量光院跡保存修理事業 ○観自在王院跡保存修理事業 ○史跡公有化事業				
事業効果	世界文化遺産のさらなる調査、整備保存を行うことにより、圏域の歴史、文化、観光等の中核とすることができる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	125,262	201,733	201,733	201,733	201,733
役割分担	圏域の財産である「平泉の文化遺産」を後世に繋いでいくため、平泉町が調査、保存整備を実施し、その費用を負担する。 一関市は、必要に応じ、平泉町の調査の協力をを行う。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	96%				
2024年度評価	(無量光院跡) 舞台整備に伴う部材購入及び取水路整備と史跡南西側の公有化を行った。				
次年度以降の取組	(無量光院跡) 令和7年度は舞台整備及び池周辺の平坦面の整備と史跡北東側の公有化を実施する予定。				

施策名	世界遺産価値向上推進事業					
連携する事項	生活機能の強化			政策分野	教育及び文化	
政策の内容	世界遺産「平泉」の構成資産及び関連資産の調査研究と保存管理			SDGsとの関連性		
取組内容	資産の価値向上及び世界遺産拡張登録に向け、世界遺産「平泉」の関連資産である「柳之御所遺跡」、「達谷窟」、「骨寺村荘園遺跡」の調査研究及び保存管理を実施する。					
成果指標 (KPI)	骨寺村荘園交流施設利用者数 拡張登録に向けた史跡達谷窟の発掘調査進捗率					
現状値 (2022 (R4) 年度)	28,108人/年	目標値 (2028年 (R10) 度)	29,000人/年	15%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	<b>【一関市】</b> ○骨寺村荘園遺跡調査研究事業 ○骨寺村荘園調査研究費 ○骨寺村荘園遺跡保全活用事業費 <b>【平泉町】</b> ○平泉遺跡群調査整備事業（達谷窟）					
事業効果	関連資産の調査や適切な整備及び保存管理、並びにその価値と魅力の情報発信を実施することで、地域住民のみならず、圏域住民が共有の財産として認識し、文化遺産保護の意識が向上する。					
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
事業費(千円)	60,143	67,427	61,967	56,904	56,904	
役割分担	資産の価値向上及び世界遺産拡張登録に向け、両市町が関連資産の調査研究、保存管理を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
	26,291人				11%	
2024年度評価	<p>行楽客が増えるゴールデンウィークや紅葉シーズンには、これまで同様休館日を設けず、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>令和5年の県と関係市町の申し合わせを受け、文化庁・拡張登録検討委員会の委員と意見交換を行いながら、柳之御所遺跡を追加する事前評価申請書の提出に向けての作業を進めた。</p> <p>史跡達谷窟を構成する要素の一つである磨崖仏の測量調査を実施した。</p>					
次年度以降の取組	<p>年間を通じた体験交流イベントや遺跡のPRイベントの開催、市内外への情報発信などを行い、来訪者の拡大に努めていく。</p> <p>柳之御所遺跡については、国県と連携し事前評価書の作成に向けた作業を進めていく。</p> <p>達谷窟については、資産の価値向上及び将来的な拡張登録に向けた調査研究を継続していく。</p>					

施策名	広域消防事業					
連携する事項	生活機能の強化			政策分野	消防防災	
政策の内容	消防防災体制などの充実			SDGsとの関連性		
取組内容	圏域内で発生した火災、救急及び救助事案について、広域的な事案処理ができるよう一関市が平泉町から業務を受託し、実施する。あわせて、圏域内の防災力を高める活動を推進する。					
成果指標 (KPI)	消防防災セミナー参加人数					
現状値 (2022 (R4) 年度)	5,035人	目標値 (2028年 (R10) 度)	12,000人	関係市町	一関市 平泉町	
事業名称	<b>【一関市】</b> ○常備消防事業 <b>【平泉町】</b> ○消防事務委託事業					
事業効果	圏域住民の安全・安心の確保、防災意識の向上が図られる。					
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
事業費(千円)	242,227	781,987	231,217	231,217	231,217	
役割分担	広域的、安定的な消防防災体制の構築に向け、一関市が圏域内の消防、救急業務を実施し、平泉町がその費用の一部を負担する。					
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	
	10,334人					
2024年度評価	令和6年度は、令和5年度と比較して参加人数は2,880名の増加、実施回数は56回の大幅な増加となり、セミナー参加者に対して防災意識啓発を図ることができた。					
次年度以降の取組	住民への防災意識啓発のため、自主防災組織をはじめ消防団や企業、学校などへ消防・防災セミナーの参加を促していく。					

施策名	生活バス路線対策事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	地域公共交通	
政策の内容	バス等の地域公共交通の維持		SDGsとの関連性		
取組内容	圏域住民の生活に密接なバス路線の運行を維持するため、廃止路線の代替手段として運行するコミュニティバスやデマンド型乗合タクシーの運行に要する経費に対して補助を行う。				
成果指標 (KPI)	人口に対するコミュニティバス等の乗車人数 (延べ) 割合				
現状値 (2022 (R4) 年度)	102.9%	目標値 (2028年 (R10) 度)	108%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○バス等運行事業費補助金 ○市営バス運行事業 【平泉町】○廃止路線代替バス運行補助金 ○コミュニティバス運行事業				
事業効果	地域間・地域内を結ぶ交通ネットワークを維持・確保することにより、自家用車を自由に利用できない住民の日常生活の移動を支える。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	321,177	327,399	327,399	327,399	327,399
役割分担	日常生活に必要となる交通ネットワークを確保するという共通認識のもと、一関市、平泉町が独自に補助等を実施し、それぞれ費用負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	129%				
2024年度評価	<p>(一関市) 令和5年10月から岩手県交通株式会社から東磐交通株式会社が引き継いだ廃止路線代替バス「げいびり線」の乗車人数が増えたことなどにより、目標値に対して大幅に上回った。</p> <p>●利用実績141,899人/R7.3月末人口104,494×100=135.8%</p> <p>(平泉町) 交通事業者、関係機関と一体なって今後の公共交通のあり方を示した平泉町地域公共交通計画を令和7年3月に策定したほか、町広報紙を活用して利用促進に向けた周知を図った。</p> <p>●利用実績1,677人/R7.3月末人口6,635人*100=25.3%</p>				
次年度以降の取組	<p>(一関市) 今後も利用者ニーズを踏まえ、利便性と効率性の向上を図っていく。</p> <p>(平泉町) 平泉町地域公共交通計画に基づき、公共交通空白地域の解消に向けたコミュニティバスの利便性向上 (ルート変更、ダイヤ見直し、バス停新設、お試し乗車デーなど) を図り、モビリティマネジメントを実施しながら、引き続き持続可能で効果的な公共交通のあり方を検討していく。</p>				

施策名	主要幹線道路等整備促進事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	交通インフラの整備	
政策の内容	圏域市町村間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進		SDGsとの関連性		
取組内容	東北縦貫自動車道平泉スマートインターチェンジや圏域内外を結ぶ国道道の整備促進のため、連携し必要な取り組みを行う。				
成果指標 (KPI)	平泉スマートインターチェンジの1日当たりの利用台数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	600台	目標値 (2028年 (R10) 度)	1,110台	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【平泉町】○平泉スマートIC関連事業				
事業効果	圏域内外の交流人口の拡大が見込まれるほか、交通安全の確保、生活の利便性の向上が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	625	325	325	325	325
役割分担	圏域の産業振興、観光振興を図るとともに、交流人口の拡大に向け、両市町が連携し、それぞれ必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	700台				
2024年度評価	新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類となった以後は、計画交通量である1,110台/日に近づいており、観光地へのアクセス向上や物流企業が立地する工業団地への距離短縮による物流の効率化など、生活利便性の向上に寄与していると捉えている。				
次年度以降の取組	平泉スマートIC駐車場内でのイベント等の開催及び企業誘致の促進により利用台数を増加させ、計画交通量を達成する事業を図っていく。				

施策名	幹線道路等整備事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	交通インフラの整備	
政策の内容	圏域市町村間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進 SDGsとの関連性				
取組内容	圏域内の幹線道路や生活道路の整備を実施する。				
成果指標 (KPI)	市道及び町道の改良率				
現状値 (2022 (R4) 年度)	57.4%	目標値 (2028年 (R10) 度)	58.1%	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○道路新設改良事業 【平泉町】○幹線道路整備事業				
事業効果	交通安全や災害時の安全が確保され、生活の利便性の向上も図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	1,082,840	983,624	993,000	964,000	964,000
役割分担	圏域内の交流を促進するとともに、災害時の安全確保を図るため、両市町間の生活道路の整備を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	58.4%				
2024年度評価	(一関市) 現道を最大限利用した道路の整備を実施し、工事費を抑えたことで目標以上の成果を達成した。 (平泉町) 現道の道路区域内で道路整備を実施したことにより、用地費用が不要となり、さらに工事費を抑制したことで目標以上の成果を達成した。				
次年度以降の取組	(一関市) 引き続き、整備計画に基づく事業を実施する。 (平泉町) 引き続き、整備計画に基づく事業を実施する。				

施策名	協働のまちづくり事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	協働のまちづくり	
政策の内容	住民が主体となった協働の地域づくり SDGsとの関連性				
取組内容	住民が自発的に関わって行う地域づくり活動や活動の中心的な役割を担う組織や人材の育成を支援する。				
成果指標 (KPI)	地域活動の事業数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	368	目標値 (2028年 (R10) 度)	384	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○市民活動推進事業 ○地域づくり交付金 【平泉町】○協働のまちづくり推進事業 ○協働のまちづくり交付金				
事業効果	住民等のまちづくりへの参画の機会が増えることで、地域の課題解決と地域コミュニティの活性化が図られるとともに、地域特性と住民のニーズに合った行政サービスが提供できる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	162,654	194,795	199,195	199,195	199,195
役割分担	両市町が協働によるまちづくりを推進し、それぞれ必要な費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	428				
2024年度評価	(一関市) 新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類に移行したことにより、各地域協働体が計画した事業は概ね開催され、地域の課題解決と地域コミュニティの活性化に寄与した。 (平泉町) 地域団体による自主的・自発的な活動による地域活性化を図る取り組みを支援するため、協働のまちづくり交付金事業を実施した。3団体に対して交付金を交付し、それぞれの事業は概ね計画通りに開催され、地域コミュニティの更なる充実と活性化に寄与した。				
次年度以降の取組	(一関市) 地域協働体が取組む事業数は、コロナ禍以前の水準に戻っていることから、引き続き地域の課題解決と地域コミュニティの活性化に向けた取組を支援していく。 (平泉町) 持続可能なまちづくりを実現するためには、地域団体による自主的・自発的な地域活性化活動への支援は重要であることから、今後も継続して支援事業に取り組んでいく。				

施策名	多文化共生推進事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	協働のまちづくり	
政策の内容	住民が主体となった協働の地域づくり		SDGsとの関連性		
取組内容	圏域における外国人住民との国際交流及び多文化共生の理解促進並びに外国人就労者等の働きやすい職場環境づくりの支援に取り組む。				
成果指標 (KPI)	多文化共生事業への参加者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	62人	目標値 (2028年 (R10) 度)	80人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【一関市】○国際交流推進費 ○国際交流活動支援補助金 ○外国人就労者地域交流促進事業 ○外国人市民等にやさしい職場環境づくり支援事業費補助金				
事業効果	住民を主体とする多様な国際交流、多文化共生事業に取り組むことにより、住民の国際化意識を醸成し、国際理解を深め、多文化共生社会の形成が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	17,459	20,779	19,876	19,476	19,476
役割分担	多文化共生社会の形成に係る住民の関心を高めるため、一関市が事業を実施し、費用を負担する				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	107人				
2024年度評価	一関夏まつりくるくる踊りパレードへの外国人手踊りチームの参加、一関市中学生海外派遣事業実施報告会と併せた他国の文化を学ぶワークショップなどを開催した。 外国人手踊りチームの参加については、例年の実施内容との差別化を行い、ワークショップの開催については、継続した事業を実施することで、様々な方が気軽に参加しやすい内容とし、一定数の参加者を確保することができた。				
次年度以降の取組	引き続き、一関市国際交流協会と連携しながら多文化共生推進に向けた事業を実施する。				

施策名	移住定住交流促進事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	圏域内外の住民との交流、移住促進	
政策の内容	移住定住の促進		SDGsとの関連性		
取組内容	近隣市町で連携し、地域外からの交流人口の増加を図るとともに、移住希望者へ圏域での暮らしの魅力を情報発信し、移住体験ツアーやお試し移住、移住者への住宅取得の費用に対する助成、空き家バンクなど移住定住につながる事業を実施する。				
成果指標 (KPI)	移住定住施策で移住した人の数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	207人	目標値 (2028年 (R10) 度)	210人	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【共通】○移住定住促進事業				
事業効果	圏域一体となった効率的な情報発信や各種事業やイベントの実施により、圏域内への移住人口の増加が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	51,196	47,995	47,009	34,052	34,052
役割分担	移住定住の促進に向けて、相互に情報交換や連携事業を行うほか、市町独自の事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	203人				
2024年度評価	田舎暮らしや移住のニーズはコロナ禍に比べ落ち着きを取り戻しているが、コロナ禍以前より移住検討者は増えたと捉えている。				
次年度以降の取組	移住定住促進事業や新たなネットワーク事業によって、引き続き移住定住促進を図る。				

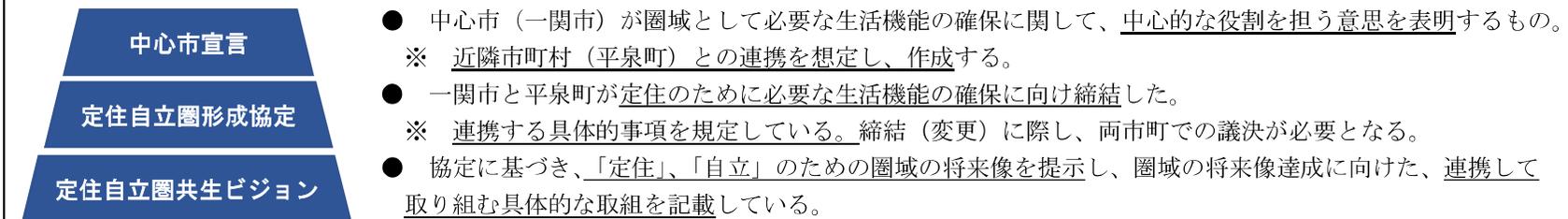
施策名	結婚活動支援事業				
連携する事項	結びつきやネットワークの強化		政策分野	近隣内外の住民との交流、移住促進	
政策の内容	移住定住の促進		SDGsとの関連性		
取組内容	出会いの場創出のため、近隣市町での連携事業も含めた婚活イベントの開催、縁結び支援による独身者の仲介や相談会開催等による結婚支援につながる事業を実施する。				
成果指標 (KPI)	合同婚活イベントのカップル成立組数 (累計)				
現状値 (2022 (R4) 年度)	15組	目標値 (2028年 (R10) 度)	39組	関係市町	一関市 平泉町
事業名称	【共通】○結婚活動支援事業				
事業効果	出会いの場や機会の創出により結婚して圏域内で暮らし続けられるような環境が形成される。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	22,294	20,134	20,934	20,134	20,134
役割分担	結婚の機会創出が定住につながるという共通認識のもと、連携事業を行い、一関市、平泉町それぞれが必要な費用を負担するほか、市町独自の事業を実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	33組				
2024年度評価	イベントの参加者数はコロナ禍以前にまで戻ってはいないものの、 <u>カップル成立数はコロナ禍以前と同じ件数となった。</u>				
次年度以降の取組	共通の課題と持つ一関市と平泉町を含めた、 <u>近隣4市町で今後も継続して事業を実施する。</u>				

施策名	DX地域活性化事業				
連携する事項	圏域マネジメント能力の強化		政策分野	中心市等における人材育成	
政策の内容	外部人材の確保		SDGsとの関連性		
取組内容	外部のデジタル人材を活用し、デジタル技術を活用した新たな事業の構想や企画などができる職員のデジタル人材を育成するための研修等を実施するとともに、住民のデジタル・デバйд対策としてスマートフォン講座を実施する。				
成果指標 (KPI)	スマートフォン講座の参加者数 職員研修の参加者数				
現状値 (2022 (R4) 年度)	47人	目標値 (2028年 (R10) 度)	100人	関係市町	一関市 平泉町
	98人		130人		
事業名称	【一関市】○自治体DX推進事業				
事業効果	デジタル技術の活用により、住民サービスの充実や行政事務の効率化が図られる。また、住民に対する講座等の開催により、個人のデジタル・デバйдの解消が図られ、地域のデジタル化による活性化が図られる。				
実施年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
事業費 (千円)	7,889	10,020	10,020	10,020	3,120
役割分担	政策分野の取組に必要な圏域マネジメント能力を強化するという共通認識のもと、圏域外の居住者や専門的知識を有する人材を活用した事業を一関市が実施し、その費用を負担する。				
実績値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	636人				
	127人				
2024年度評価	集合型研修（市民センターによるスマートフォン教室：延べ参加者490人）と、自宅に向いて行う出前型スマートフォン教室（延べ参加者146人）を実施し、市民のデジタルデバйд解消につながる取組となっている。 一関市DX推進本部データ活用に関するプロジェクトチーム員（8人）に対し、プログラミング研修を行い、RPAに代わるアプリを作成するなど、 <u>経費削減と業務効率の向上につなげることができた。</u> また、LoGoフォームの操作研修（119人）を行い、 <u>手続などのオンライン化の推進につなげることができた。</u>				
次年度以降の取組	デジタルデバйдの解消となるよう、身近な情報通信端末であるスマートフォンを使いこなせるよう、 <u>引き続き講座を開催する。</u> 職員のデジタル人材育成を進めるため、引き続き、研修を実施する。				

## 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定について

### 1 定住自立圏の形成に向けた手続きと共生ビジョンの策定について

#### 【定住自立圏構想の概要】



#### 【定住自立圏構想に係る経過】

年度	月日	主体	内容	備考
平成25年度	H25. 7月	一関市	中心市宣言	
	H25. 10月	市町	定住自立圏形成協定締結	
	H26. 3月	一関市	第1次共生ビジョン策定	計画期間：H26～30
平成30年度	H31. 3月	市町	定住自立圏形成変更協定	
		一関市	第2次共生ビジョン策定	計画期間：R1～5
令和5年度	R 6. 3月	一関市	第3次共生ビジョン策定	計画期間：R 6～10

### 2 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンについて

#### (1) 策定のねらい

一関市と平泉町は、令和7年度にそれぞれ一関市総合計画前期基本計画（計画期間：令和8年度から令和12年度）と第6次平泉町総合計画後期基本計画（計画期間：令和8年度から令和12年度）の策定を予定していることから、市町の最上位計画の内容に合わせた定住自立圏形成協定と定住自立圏共生ビジョンとすること。

#### (2) 計画期間 令和9年度から令和13年度までの5年間とする。

#### (3) 策定方法

- ① 市町の総合計画基本計画の内容に基づき、必要に応じて定住自立圏形成変更協定を締結する。
- ② 市町の総合計画基本計画と定住自立圏形成協定の内容に合わせて、第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンを策定する。

#### (4) 計画期間の延伸、短縮

定住自立圏形成協定を締結している市町村の合意により計画期間を調整することは可能とされており、一関市と平泉町では令和8年度に第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンを策定することに合意していることから、第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの計画期間を令和8年度までとする。

令和7年度及び令和8年度のスケジュールについて

1 令和7年度スケジュール（第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン）

【令和7年度一関・平泉定住自立圏共生ビジョンに係るスケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
懇談会			ビジョン懇談会① ・定住自立圏構想及び定住自立圏共生ビジョンについて ・第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの改定について						ビジョン懇談会② ・KPIに対する令和6年度実績について ・第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定について ・スケジュールについて			
第3次 ビジョン							ご意見を改定に反映			改定作業		改定

(1) 懇談会でいただいたご意見により、以下のとおり進めます。

- ① 令和8年度予算に反映できる事業は、令和8年度予算成立後、第3次ビジョンの改定を進めます。
- ② 令和8年度予算に反映できない事業は、第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンへの搭載を検討します。

(2) ビジョンの改定内容は、令和8年度第1回ビジョン懇談会で報告します。

2 令和8年度スケジュール（第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン）

令和8年度一関・平泉定住自立圏共生ビジョンに係るスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
懇談会			ビジョン懇談会①（仮） ・第3次ビジョンの改定について ・変更協定締結方針（案） ・第4次ビジョン策定方針（案）					ビジョン懇談会②（仮） ・KPI実績について ・変更協定について ・第4次ビジョン（案）				ビジョン懇談会③（仮） ・変更協定について ・第4次ビジョンについて	
第3次 ビジョン			実績取りまとめ				ご意見を変更協定、第4次共生ビジョンに反映		ご意見を変更協定、第4次共生ビジョンに反映				
第4次 ビジョン		事務局打合せ	変更協定締結に係る打合せ							変更協定内容決定	変更協定議案提出	協定締結	
議会等	一関市 平泉町		6月通常会議 6月定例会議			9月通常会議 9月定例会議				12月通常会議 12月定例会議		2月通常会議 3月定例会議	議決 議決

※市議会の開催日程は予定であり、決定したものではありません。

- ・ 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定に伴い、ビジョン懇談会の開催を3回予定しています。
- ・ 委員の皆様方からは、各専門分野の見地から、協定の変更内容について、第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの取組等に対し、ご意見等を頂戴したいと考えております。